

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	家電量販店（経営者）	お客様の様子	・薄型テレビを中心としたデジタル関連の売行きが好調なのに加えて、エアコンがよく売れた。現金払いの客が非常に増えた。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・売上が前年比でプラスとなっている。
	やや良く なっている	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・客の購買に勢いが無い。しかし、トレンドやクオリティを押さえた商品は着実に売上を伸ばしており、客の消費マインドは決して落ち込んではいない。
			スーパー（店長）	来客数の動き
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・乾麺やつゆ、清涼飲料、アイスクリーム等の涼味商材を中心に動きが悪いものの、100円均一セールや夕方タイムサービスなど販促展開により生鮮部門を中心に販売数が好調に推移した。3月～5月にオープンした競合店の影響も薄らぎ、売上は回復傾向にある。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・正価販売品の催事を行ったが、確実な集客に加え、購買意欲も高く、まずまずの成績であった。しかし後半は雨が多く、全体が失速した。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・呉服宝飾品やヤング婦人服雑貨の売行きが好調で、前年比を大幅に上回っている。特に着物や宝石、時計の売上が良い。一方、ミセス婦人服は先月と同じく悪くなっている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・来客数の増加に伴い、販売額が伸びており、確実に需要は高まっている。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・サッカーワールドカップ関連だけでなく、冷蔵庫や洗濯機、エアコン等の省エネ、高付加価値商品の動きが良い。
		家電量販店（企画担当）	単価の動き	・サッカーワールドカップの影響で、液晶やハイビジョンテレビ等高額品が動いている。
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・各社新聞折込チラシや街頭チラシなどの効果もあり、月半ばから月末にかけて自店のみでなく、全体的ににぎわいを取り戻した。目玉商品を中心に販売台数が増加した。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・入場者数が前年に比べて115%と大分良い状況である。7、8月の予約数を見ると、すでに前年と同じくらいの予約数となっており、前年を確実に上回る状況である。
		美容室（店長）	来客数の動き	・常連でない来客数が増えている。
		設計事務所（所長）	販売量の動き	・官公庁の工事も順調に出てきており、それなりに設計業界は潤っている。
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・依然、来客数、客単価ともに上がらず、メーカーサイドも安価な商品の製作が多い。
			来客数の動き	・来街者数が減少している。近辺の駐車場も駐車台数が減少傾向にある。
		一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・果物の動きが鈍く、客単価が上がりにくい。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・北九州ではスーパーの開店ラッシュであり、競争が激化している。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・客の年齢が上がっており、40～50歳の女性客が減少している。店頭の商品ぞろえと客層のギャップを感じる。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数が依然前年割れしており、新店の開店から1年経過したが来客数は戻らない。高齢者の交通費負担増加の影響で気軽な外出が減少している。また可処分所得の減少が、売上や来客数に大きな影響を与えている。

百貨店（売場担当）	来客数の動き	・来客数は前年比94.5%程度である。雨がかなり多かったため衣料品関係は全般的に悪く、ここ3か月で最低の水準である。客単価も1品単価も、前ほどではないがやや落ちた。
百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・6月の天候不順などの悪条件も重なり、夏物商品が低迷した。クールビズ商品も昨年ほどの目立った動きがない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・食料品の売上は2か月連続で前年を上回っており、今後も引き続き上向き傾向は続く。ただし、夏物衣料品は前年比5%減と厳しい。
スーパー（店長）	お客様の様子	・全体の売上に対し、バーゲン時の売上の占める割合が大きくなっている。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数の動きがここ3か月横ばいである。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・例年より梅雨入り前の雨が多く、なかなか売上が上がらない。特に加工食品の動きが悪い。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・県全体で多くの商品の割引販売を実施するキャンペーンを行ったが、来客数、客単価共に大幅に増加した。特に客単価は前年比110%を示した。安価で価値のある商品に消費者の財布のひもは緩んでいる。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・ゴールデンウィーク以降、客単価が低下しており、必要以上の物を購入しない傾向にある。
コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店の売上が前年比105.6%、コンビニエンスストアが同99.5%、ローカルスーパーが同103.2%とほぼ前年をクリアした。中でも食パン、菓子パンの売行きが非常に好調だった。米飯に関しても量販店が同111.2%と飛躍的な伸びを示した。
衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・雨の日が多く、夏らしい日が少なかったため、盛夏衣料の売上が伸び悩んだ。今年は例年より早くセールに入るところが多く、月後半には正価販売品では売れなくなった。しかたなく予定より早く、セールを始めるような状況だった。
家電量販店（店員）	お客様の様子	・同業他店を回って決定する買い回り客が少なくなった。客の購買行動に落ち着きが見られる。
乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・ガソリンの高騰により、燃費の良い車ばかりが売れるようになった。特に軽自動車を購入する客が多い。
乗用車販売店（管理担当）	単価の動き	・イベントを実施し、来場者数は多いが、実際に購入する客は減少している。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・来客数はほとんど変わらないが、販売量は若干減っている。高額商品なので、購買はかなり慎重になっている。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は高止まりした感がある。一般消費者は、若干価格の安いセルフを利用する傾向が強まっているが、エリアにおける全体的な需要の量は低下していない。公共交通機関や流通業界への燃料油高騰による影響が懸念される。
その他小売[雑貨卸]（総務担当）	単価の動き	・原油価格の高騰により、プラスチック製品や化学製品などが値上がりしており、客も買い控えしている。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・月初は客の入りも少しあったが、サッカーワールドカップが始まり、来客数は減少した。日本戦のあるときは本当に少なかった。
高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・法人客は芳しくないが、個人客の内祝いなどの食事が増えている。
一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数は前年と比較して減少していないが、それは営業努力の結果であり、通常どおりの営業をしていたら確実に落ちていた。
タクシー運転手	来客数の動き	・日中の一般客の動きが極端に悪い。ただ会社関係の歓迎会等でチケットがよく使われている。売上は目標を達成している。
タクシー運転手	お客様の様子	・昼夜と会合があるせいかこまめな利用が多いが、ホテル等宿泊が少ないようで、午前中の利用が少ない。
通信会社（管理担当）	単価の動き	・単価が低下しており、厳しくなってきた。
通信会社（企画担当）	来客数の動き	・依然、契約者数は横ばいで推移している。

		観光名所（職員）	来客数の動き	・観光施設とゴルフ場なので天候に左右されるが、観光施設については前年比13%増であった。ゴルフ場については雨、霧が多く同25%減となった。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・住宅関係の問い合わせ、引き合いが3か月前、昨年と比べて変わらない。
やや悪くなっている		商店街（代表者）	来客数の動き	・3月はひな祭りで来街者が中心街に大変多かったが、今は人通りが少なくなっている。駐車違反の取締りで中心街に駐車する車は減ったが、来街者も少なくなっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・駐車場不足に加えて、駐車監視員が頻繁に見回りに来るので来客数が減っている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・天候が非常に悪いため、来街者数も少なく、売上も悪い。消費者の購買意欲が全くない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街では、午後からの来客数が少なく、売上は足踏み状態である。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・天候で左右される為、雨の多い梅雨時期に入ると客足が減少する。暑い日が続くと単価が低い麦茶の売行きは上がるが、その分緑茶の売行きは伸び悩む。
		百貨店（営業担当）	それ以外	・近辺に大型商業施設がオープンしてから1年が経過したが、市内の中心市街地では空き店舗が増える傾向にある。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・売上の減少幅が大きくなっている。高額品の売行きは依然好調なもの、婦人衣料を中心とするボリューム商品の動きが鈍い。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・中元ギフトを含む、客単価が下落している。特に定価販売商品が売れなくなっている。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・夏物の動きが悪く、7、8月は夏物バーゲンの値下げによる客単価の下落幅が大きい。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の増加が見られない。原油価格の上昇により食料品等の買い控えが始まってきた。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合店の大型店が郊外にでき、平日の売上は前年並みであるが、日曜日の売上が前年比95%とかなり落ちている。
		スーパー（総務担当）	それ以外	・比較的好調に推移していた衣料品であるが、天候不順などの影響を受けて売上が伸び悩んでいる。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数が減少している。
		都市型ホテル（総支配人）	販売量の動き	・新北九州空港は深夜、早朝便など便利が良すぎて日帰り客が増えている。市内のホテルは軒並み稼働率が減少している。
		都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・今月は福岡全体が予約も少なく、沈みがちであった。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・サッカーワールドカップ応援ツアーは予定の80%程度であった。茶の間観戦の増加や、好調だったゴールデンウィークの反動で、旅行の総需要が落ちている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月はサッカーワールドカップの影響で、日本戦があるときはとても商売にならなかった。
	ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・梅雨の長雨により、客足は急速に鈍化してきた。	
	競輪場（職員）	販売量の動き	・発売額の前月比が著しく落ちている。	
	美容室（経営者）	販売量の動き	・来客数が少なく、販売量の上向きもない。周りにディスカウントストアもできてきており、その影響もある。	
悪くなっている		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・大変苦戦している。若い年齢層の客は前年に比べ、大きな落ち込みはないが、50、60代の落ち込みが非常に大きい。天候のせいもあるだろうが、その年代の夏物衣料の動きが悪い。
		高級レストラン（専務）	単価の動き	・一般的に前年度を随分下回り、後半は少しは持ち直したが、やはりサッカーワールドカップの影響で消費が下がっている。
企業動向関連	良くなっている			
	やや良くなっている	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上は前年比10%以上の増加となった。

	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連並びに半導体電子部品関連は、大手・中堅企業ともに全般的に動きが非常に活発になってきており、金型業界全体も全国的にこの傾向が波及している。特に微細加工の精密機械部品が好調である。
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・駐車違反の取締りが厳しくなったため、駐車場ビジネスの需要増で、立体駐車場の受注に成功した。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・特に融資先の取引先では、前年に比べて売上高が増加傾向にある。
変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前半が梅雨明けを思わせるような天候であったため、例年に比べるとスーパー関連、居酒屋関連が伸びている。ただ、牛肉が在庫増なので関連加工メーカーの価格帯及び量が思わしくない。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・飲料関係の動きは好調であるが、それ以外については低迷している。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・資金需要が低迷している。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・企業向けの貸出金が伸びない。しかし個人向けは、特に住宅ローンが長期金利の上昇傾向を受け、徐々に申し込みの案件が出ている。
	経営コンサルタント	それ以外	・会費制の勉強会で退会者が少しずつ増えている。
やや悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・焼き物業界では毎年1月と6月に消費地での商社の展示会をやっているが、今回の展示会は前年より悪かった。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・更新部品製作ばかりで、新型が全くない。自動車有一段落した。
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・この2、3か月の受注の落ち込みが激しい。
	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・衣料品や食料品、化学工業品、日用雑貨すべての商品で荷動きが悪かった。
	経営コンサルタント	取引先の様子	・後半特に天候が崩れたため、人出が少なくなっている。特に飲食関係等の売上が悪い。
	経営コンサルタント	取引先の様子	・酒飯店の動きが変化しており、酒類の取扱いのみならず、業態を変更する現象が起こり始めた。
	その他サービス業〔物品リース〕（役員）	取引先の様子	・設備投資意欲が徐々に慎重になっており、それが受注の伸び悩みに表れている。
悪くなっている	農林水産業（従業者）	受注量や販売量の動き	・海外からの輸入が非常に多くなり、国内生産も多くなっていることから、価格については非常に悪い状態である。
雇用関連			
	良くなっている		
やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・長期案件が増えてきている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・昨年同時期に比べ新規求職者が12.8ポイント減少し、新規求人数は19.2ポイント上昇している。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者数が減ってきていたが、8か月ぶりに前年比増となった。詳細を見ると転職希望や在職者からの求職が増加している。
	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・前年同期に比べ、求人数が2けた増で推移している。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・春先から求人の動きが停滞している。人材は欲しいがなるべく良い人材を確保したいと、各企業も慎重になっている。
	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・派遣のオーダー件数については長期を中心に安定して増加傾向にある。また、新規の受注も増えており、オーダーは安定して増加傾向にある。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・新聞の求人広告が前年に比べ堅調であった。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・正社員募集が少なく、パートやアルバイトなどの雇用が増大している。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・例年この時期は、お中元を中心に製造業や物流などの短期の求人が活発になるが、今年は依頼が減少傾向にある。これまで主流になっていたフリーターの採用が一段と厳しくなり、一部では直接雇用に移行している。

悪く なっている	-	-	-
-------------	---	---	---